



号  
13  
○  
オ  
定  
郵便振替・大阪ア9064  
備北百人委員会  
留

73弥栄之郷共同体夏季労働  
キヤンア実施要項

期間／7月10日～9月10日

オ1期7月10日～7月31日

オ2期8月1日～8月15日

オ3期8月16日～8月31日

オ4期9月1日～9月10日

（原則として各期毎参加）

（費用×1日三百円）ただし米

（1日3合計算）持参者は二百円

（持参品）長靴、作業衣（長ズボン）

（又は毛布、気になる人はサーツも）

（筆記用具、洗面具、虫々され用薬（アンモニア水）海水着、その他

（その他詳細は「キヤンア参加者

のためのしおり」を参考にして下

さい。」「おり」の申し込みはへ大阪

市東成区玉津二丁目東成玉津郵便

局留備北百人委員会）まで。

（1）「夏のキヤンア」と題する

（2）「夏のキヤンア」と題する

（3）「夏のキヤンア」と題する

（4）「夏のキヤンア」と題する

（5）「夏のキヤンア」と題する

（6）「夏のキヤンア」と題する

（7）「夏のキヤンア」と題する

（8）「夏のキヤンア」と題する

（9）「夏のキヤンア」と題する

（10）「夏のキヤンア」と題する

（11）「夏のキヤンア」と題する

（12）「夏のキヤンア」と題する

（13）「夏のキヤンア」と題する

（14）「夏のキヤンア」と題する

（15）「夏のキヤンア」と題する

（16）「夏のキヤンア」と題する

（17）「夏のキヤンア」と題する

（18）「夏のキヤンア」と題する

（19）「夏のキヤンア」と題する

（20）「夏のキヤンア」と題する

（21）「夏のキヤンア」と題する

（22）「夏のキヤンア」と題する

（23）「夏のキヤンア」と題する

（24）「夏のキヤンア」と題する

（25）「夏のキヤンア」と題する

（26）「夏のキヤンア」と題する

（27）「夏のキヤンア」と題する

（28）「夏のキヤンア」と題する

（29）「夏のキヤンア」と題する

（30）「夏のキヤンア」と題する

（31）「夏のキヤンア」と題する

（32）「夏のキヤンア」と題する

（33）「夏のキヤンア」と題する

（34）「夏のキヤンア」と題する

（35）「夏のキヤンア」と題する

（36）「夏のキヤンア」と題する

（37）「夏のキヤンア」と題する

（38）「夏のキヤンア」と題する

（39）「夏のキヤンア」と題する

（40）「夏のキヤンア」と題する

（41）「夏のキヤンア」と題する

（42）「夏のキヤンア」と題する

（43）「夏のキヤンア」と題する

（44）「夏のキヤンア」と題する

（45）「夏のキヤンア」と題する

（46）「夏のキヤンア」と題する

（47）「夏のキヤンア」と題する

（48）「夏のキヤンア」と題する

（49）「夏のキヤンア」と題する

（50）「夏のキヤンア」と題する

（51）「夏のキヤンア」と題する

（52）「夏のキヤンア」と題する

（53）「夏のキヤンア」と題する

（54）「夏のキヤンア」と題する

（55）「夏のキヤンア」と題する

（56）「夏のキヤンア」と題する

（57）「夏のキヤンア」と題する

（58）「夏のキヤンア」と題する

（59）「夏のキヤンア」と題する

（60）「夏のキヤンア」と題する

（61）「夏のキヤンア」と題する

（62）「夏のキヤンア」と題する

（63）「夏のキヤンア」と題する

（64）「夏のキヤンア」と題する

（65）「夏のキヤンア」と題する

（66）「夏のキヤンア」と題する

（67）「夏のキヤンア」と題する

（68）「夏のキヤンア」と題する

（69）「夏のキヤンア」と題する

（70）「夏のキヤンア」と題する

（71）「夏のキヤンア」と題する

（72）「夏のキヤンア」と題する

（73）「夏のキヤンア」と題する

（74）「夏のキヤンア」と題する

（75）「夏のキヤンア」と題する

（76）「夏のキヤンア」と題する

（77）「夏のキヤンア」と題する

（78）「夏のキヤンア」と題する

（79）「夏のキヤンア」と題する

（80）「夏のキヤンア」と題する

（81）「夏のキヤンア」と題する

（82）「夏のキヤンア」と題する

（83）「夏のキヤンア」と題する

（84）「夏のキヤンア」と題する

（85）「夏のキヤンア」と題する

（86）「夏のキヤンア」と題する

（87）「夏のキヤンア」と題する

（88）「夏のキヤンア」と題する

（89）「夏のキヤンア」と題する

（90）「夏のキヤンア」と題する

（91）「夏のキヤンア」と題する

（92）「夏のキヤンア」と題する

（93）「夏のキヤンア」と題する

（94）「夏のキヤンア」と題する

（95）「夏のキヤンア」と題する

（96）「夏のキヤンア」と題する

（97）「夏のキヤンア」と題する

（98）「夏のキヤンア」と題する

（99）「夏のキヤンア」と題する

（100）「夏のキヤンア」と題する

（101）「夏のキヤンア」と題する

（102）「夏のキヤンア」と題する

（103）「夏のキヤンア」と題する

（104）「夏のキヤンア」と題する

（105）「夏のキヤンア」と題する

（106）「夏のキヤンア」と題する

（107）「夏のキヤンア」と題する

（108）「夏のキヤンア」と題する

（109）「夏のキヤンア」と題する

（110）「夏のキヤンア」と題する

（111）「夏のキヤンア」と題する

（112）「夏のキヤンア」と題する

（113）「夏のキヤンア」と題する

（114）「夏のキヤンア」と題する

（115）「夏のキヤンア」と題する

（116）「夏のキヤンア」と題する

（117）「夏のキヤンア」と題する

（118）「夏のキヤンア」と題する

（119）「夏のキヤンア」と題する

（120）「夏のキヤンア」と題する

（121）「夏のキヤンア」と題する

（122）「夏のキヤンア」と題する

（123）「夏のキヤンア」と題する

（124）「夏のキヤンア」と題する

（125）「夏のキヤンア」と題する

（126）「夏のキヤンア」と題する

（127）「夏のキヤンア」と題する

（128）「夏のキヤンア」と題する

（129）「夏のキヤンア」と題する

（130）「夏のキヤンア」と題する

（131）「夏のキヤンア」と題する

（132）「夏のキヤンア」と題する

（133）「夏のキヤンア」と題する

（134）「夏のキヤンア」と題する

（135）「夏のキヤンア」と題する

（136）「夏のキヤンア」と題する

（137）「夏のキヤンア」と題する

（138）「夏のキヤンア」と題する

（139）「夏のキヤンア」と題する

（140）「夏のキヤンア」と題する

（141）「夏のキヤンア」と題

る。ロマン的反動とはしばしば情況に對しアリアウショナリイ（單純反発的）な態度、あるいは脱情況的な姿勢をとるが、眞にその情況をつくりかえる変革力を内存しない。一昨年の備北下の共同体キヤンニア①脱体制ダルーフ②反体制ダルーフ③原始回帰ダルーフの3つに共同体志向のパターンがあつたことを思い出す。その後われわれがたゞいた道は勿論反体制運動としたの共同体志向であった。

(4)我々が共同体を語るとき、しばしばキヌツ・山岸会と同一視されアキタ。我々は今すぐにもはつきりとキヌツ・山岸会に代表される共同体的貞のどの点を評価しどの点を批判するのか。そして全体としてどの点を批判するが故に新しい共同体を目指しているのかをはつきり認知しなければならない。

へ國家ー内ー共同体ーの内的共同性が本質的に外的占有性（排外性）であるかぎり我々は共同体内に

桃源境を追い求めるばかりではない  
られない。それを社会的存在として  
不可能ならしめる社会に対する変  
革力が必要なのである。

國家	義務労働	管理運営	賃金労働	物質的刺激による労働	量的生産の追求	個人(家族)生活
ミニユーン	自發性による労働	自治運営	生活労働	精神的刺激による労働	貞的生産の追求	共存生活

行為に遁され、充分な許容力があるとは言い難い。そのため無責任に「共同体良い」と一度はおいで」と呼びかけるわけにはいかない。むしろ、あえて自らを厳しく律しつつ、共同体を現状からのドロツクアウトの場と考える人、生産労働を軽視する人、労働に遊びに自らの肉体を汚さない人、自分を常に新しく創り変えようとする人、集団の必要不可欠の部分を構成出来ない人、弥栄之郷共同体の問題を主体化しようとしない人、等々には、ニニ弥栄之郷共同体のキヤンカはふくわしくないかもしねない。しかし要是主体性の問題である。労働キヤンカに、あるいは弥栄之郷共同体に自らを必要不可欠の部分として投企へアンガーディユーセンとする、あなたと、ぼくとの出会いを創り出したいと思つてゐる。

「こむうの塾院にお手紙いたしましたが、返事おくれて申し訳ありません。いくつか質問をいたしましたので、それにお答えしてみますので、それにお答えしますが、塾のことと私自身も考えてみようと思ります。

一、今、こむうの塾には「常駐の先生」ほりないんです。だから心配して下さる方々「常駐の先生」と通いの先生の関係での問題はありません。それより、通いの先生ばかりでどういうふうに自分たちのやり方に塾をやっていくのか、週2回2時間程度しか食うなり子供たちとどういう関係をつくっていけるのか、が私たちの最大の問題です。

二、こむうの通信はオニ号まで発行したのですが、これは生徒と保護者にも、もちろん見せてていきます。

三、こむづな通信  
の編集は、今堀で  
教えている人と教えてはいないけ  
ど堀との関わりをもつてている人が  
やっています。生徒は加わってい  
ません。彼らは自分たちで新聞(ら  
しきもの)を作っています。一年生  
が「こむづな新聞」、二年生が「ワ  
ースト5+4」。紙上で二年生が一  
年生の批判をし、一年生が反省会  
をしてりています。